

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、7月27-28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。

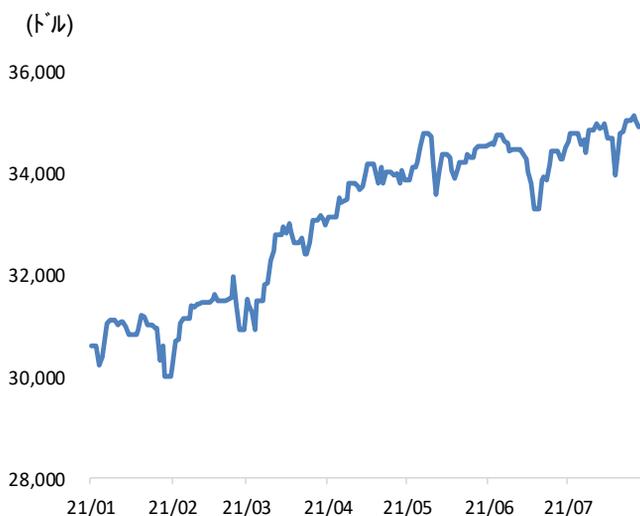
資産購入の規模については、昨年12月のFOMCで、最大雇用と物価安定の目標に向けて更なる大きな進展が見られるまで継続することを示唆していましたが、今回のFOMCの声明文では、「経済はこれらの目標に向けて進展しており、委員会は今後数回の会合において進展度合いを引続き検証する」との文言を追加し、テーパリング(資産購入額の段階的縮小)に着手する可能性を示唆しました。インフレについては、「上昇したが主に一時的な要因を反映している」と、前回の表現を維持しました。

パウエルFRB議長は記者会見で、テーパリングの開始はデータ次第で具体的な時期は決まっていないこと、MBS(住宅ローン担保証券)を米国債よりも早く縮小する案は支持されなかったこと、を明らかにしました。一方、新型コロナウイルスの感染拡大について、デルタ変異株の影響は、恐らく今までもよりも小さいとの楽観的な見方を示しつつ、正常な状態には依然として距離があるとの見解を示しました。

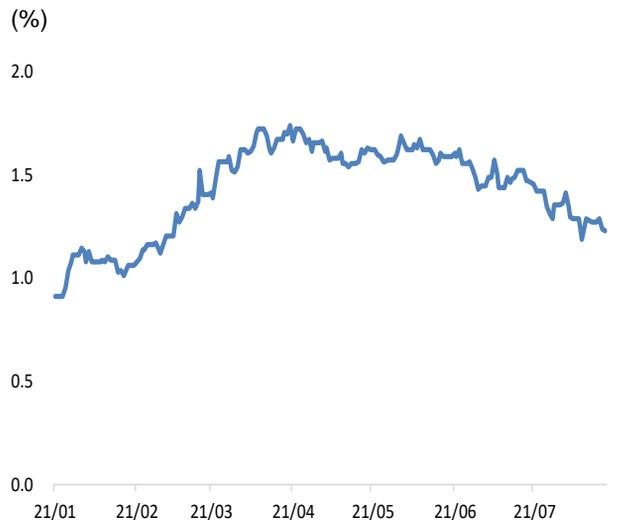
市場の反応

米国株式市場では、FOMCがテーパリング開始基準への進展を指摘したことを受けて、NYダウは前日比127.59ドル安の34,930.93ドルで終わりました。一方、米国債券市場では、声明文の発表を受けて、米10年国債利回りは一時1.27%まで上昇しましたが、その後、パウエル議長が、正常な状態には程遠いと慎重な姿勢を示したことから買い戻され、前日比ほぼ横這いの1.23%で終わりました。外国為替市場では、パウエル議長のハト派な発言を受けて、ドル安・資源国通貨高が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2021/1/1～2021/7/28、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCでは、テーパリングに関する議論が本格的に開始され、テーパリング開始の基準に向けて進展があったことを認めつつ、改めて金融緩和の縮小に慎重な姿勢を示しました。

弊社としては、FRBが金融政策の目標とする最大雇用と物価安定に向けた進捗状況を引続き確認してまいります。物価については、6月の消費者物価指数が前年同月比で+5.4%と大幅に上昇しましたが、供給問題の影響等が大きく、一時的であるとの見方をFRBは変えておりません。雇用については、6月の非農業部門雇用者数は市場予測を上回ったものの、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準と比べて、いまだに680万人ほど少ない状況です。テーパリングについては進捗したものの基準には至らずとの見解は、概ね市場の予測通りでした。

来月には各国の中央銀行総裁等が参加する経済シンポジウムであるジャクソンホール会議が開催されますが、今回のFOMCを受けて、パウエルFRB議長がこの会議でテーパリングに関するメッセージを発信するとの予想が強まりました。今後の見通しについては、新型コロナウイルスの感染再拡大に注意が必要ですが、雇用の進展度合いを確認しながら、テーパリング開始に向けた地均しを辛抱強く進めていくものと予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
8月		26-28日: ジャクソンホール会議	
9月	21-22日: 日銀政策決定会合	21-22日: FOMC	9日: ECB理事会

出所: Bloomberg